

令和6年度あわじ環境未来島構想推進協議会総会議事概要

- 1 日 時 : 令和6年5月22日(水) 14時30分～16時40分
 2 場 所 : 淡路夢舞台国際会議場 メインホール
 3 構成団体数 : 115 団体
 4 出席団体数 : 50 団体 (委任状出席 40 団体)
 5 出席者 : 別紙のとおり

発言者	内容
石村 会長 (一財)淡路島く うみ協会)	<p>1 開会 (開会あいさつ)</p> <p>あわじ環境未来島構想は 2011 年 12 月に国の地域活性化総合特区の指定を受けてから 12 年が経過。エネルギー、農と食、暮らしの分野で、島内各所で様々な取り組みが行われてきた。</p> <p>本日は構想の実現に向けた取り組みの状況、総合特区としての事後評価、構想の実現に向け取り組まれている方々からの活動報告、意見交換等を予定。</p>
富永 県民課班長	<p>(来賓、アドバイザー紹介) (本日の協議会の出席状況について、事務局から説明)</p>
由良 県民躍動室長	<p>構成団体数 115 団体中、 出席 50 団体 (オンライン参加を含む)、 委任状出席 40 団体</p> <p>規約第 11 条に定める総会開催要件の全構成団体 1/2 以上の出席を満たしており、本総会は有効に成立している旨、報告</p>
由良 県民躍動室長	<p>2 議事</p> <p>(1) 規約の改正について</p> <p>(2) 企画委員会委員の指名について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料 1、資料 2 のとおり説明、報告 資料 1 について異議なしにて承認された。
由良 県民躍動室長	<p>(3) あわじ環境未来島構想の推進状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料 3-1, 2, 3 のとおり説明
森谷 広域調整課長	<p>(4) 総合特別区域事後評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料 4-1, 2, 3 のとおり説明

<p>田中 リサーチマネージャー ((公財)地球環境戦略研究機関)</p>	<p>(5) 活動状況報告等</p> <p>①「あわじ環境未来島構想におけるカーボンニュートラル実現に向けたロードマップの作成について」</p> <p>昨年度から淡路島のカーボンニュートラル実現に向けたロードマップ策定に取り組んでいる。地域が目指したい将来シナリオ作成のための関係者ヒアリングでは、電力の地産地消、食・農と連携した取組に関する意見が多く見られた。今後はカーボンニュートラルに向け、化石燃料からの脱却や島内の太陽光発電導入量を増やすこと、再生可能エネルギー等を無駄なく利用することが重要。</p>
<p>佐藤 代表 (バンブーペイブ協会)</p>	<p>②「淡路島における竹チップ舗装と新しい竹の利活用」</p> <p>竹チップを用いた土系舗装の開発をしている。ひょうご TECH イノベーションプロジェクトにて淡路島の放置竹林の竹を活用した土系舗装を淡路島公園で実施。今後、防草効果、浸透性、保水性等について継続的に検証していく。ほかにも様々な形で竹を活用していけるよう、新素材として、燃料として、建築資材としてなど取り組み、竹の特性を生かした新たな流通システムの構築を目指している。</p>
<p>松田 渦潮・観光参事 (淡路県民局県民躍動室)</p>	<p>③「AWAJI 島博について」</p> <p>大阪・関西万博を契機として、淡路島の豊かな自然、歴史・文化、食、農漁業・畜産業、地場産業などに触れる体験等を通して淡路島の魅力を堪能できる「AWAJI 島博」を開催する。実行委員会を主体として、団体や企業等が期間中に実施する多彩な取組や、島博サポーターの応援によって構成される。現在、参加事業やコンテンツ、協賛、サポーターを募集中。</p>
<p>齊木 名誉教授 (神戸芸術工科大学)</p>	<p>(6) 意見交換</p> <p><u>アドバイザーからの意見・質問等</u></p> <p>活動報告で、持続可能な社会を目指して展開されているシミュレーションの話があったが、これを実施している目標は。淡路で展開した内容を、よりマクロに日本の将来に生かしたいということがあるのか、淡路島で具体的に実現性を持って展開するのか、経済や産業、社会の仕組みを含めた新しいモデルが淡路で誕生し日本の様々な地域で生かされていく形のいずれか、方向をお尋ねしたいと思った。</p> <p>バンブーペイブ協会の活動報告については、エネルギーギッシュに展開されていると感じる。近年様々な形で竹を生かしてきている。ここで実現されることは淡路、日本に留まらない世界的なテーマになると思う。</p>

<p>齊木 名誉教授 (神戸芸術工科大学)</p>	<p>人口が減少し高齢者が今後も増えていく中で、様々なテーマを淡路島では誰が主体となって実現されたものを具体化していくのか。いろいろと展開されたものがどう定着し、定着したものが淡路の地域コミュニティやこれからの子どもたちにどう生かされていくのかの道筋を聞きたい。</p> <p>エネルギーの自給と言っているが、淡路島に住んでいる人たちが実際に実感できるようなモデルとして見せていただけるとよい。展開されている構想の取り組みを常に正しい情報として共有できるかを考える必要がある。</p>
<p>中瀬 名誉館長 (兵庫県立人と自然の博物館・兵庫県立大学名誉教授)</p>	<p>最初の会長挨拶でこの構想は 2011 年からスタートしたとあった。14 年前のことになる。「生命つながる『持続する環境の島』」として取り組んでいるが、「いのちつながる」は環境省が言っている生物多様性のテーマと合う。淡路島は環境省が提唱するずっと前から議論していたことを実感した。環境省の言う自然共生サイト、30by30 にもつながるが、今日言われたいろいろなプロジェクトの背景になってくる風景、景観、環境もこれからしっかり作っていくことも進めていただけたらと思う。</p>
<p>森栗 教授 (神戸学院大学人文学部・大阪大学招聘教授)</p>	<p>資料 3-1 の 1(8)EV アイランドあわじ推進事業について。構想当初は先進的だったかもしれないが、時代が追いついてきたので今後どうするかを打ち出さないといけない。</p> <p>世の中は大規模な発電所、蓄電所ではなくスマートハウスなど個別蓄電で取り組むようになってきている。いつまでも同じことをするのではなく、スマートハウス等を先導的に提案し、送電の問題も含めて取り組んでいくべき。環境省や経済産業省の大きな枠を取ってくるくらいの戦略的な試みもあっていいのではないか。</p> <p>2(7)食料供給基地としての生産振興対策の推進 に関連して、人材確保の面については、今年 2 月の閣議決定で外国人の技能労働の制限が撤廃され、より幅広くできるようになった。こうした時代の変化を捉え、いろいろな人に来ていただけるよう積極的に打ち出していければよい。</p> <p>3(5)廃棄物対策とリサイクル徹底による環境保全 の廃棄物について、大栄環境グループがヒートコンテナを地域で活用する事業を進めているが日本で展開できる形になっていない。廃棄物を清掃するのも大切だが、実際にはゴミを燃やしているところがあるので、その余熱をどうするのか。太陽光等でエネルギーをつくる一方、実は捨てているエネルギーもある。それをどう活用するかを考えるのは結構効率の良い話。地元企業と連携していくことが必要。</p>

<p>鷺尾 副理事長 (NPO法人里海づくり研究会議・元林崎漁業協同組合顧問・日本伝統食品研究会会長)</p>	<p>近年、海は綺麗になったが栄養不足で逆に空っぽになったように感じる。吉備国際大学の海洋水産学科が新設され、淡路に志知キャンパスがあるのに、活躍の場がなくなってしまっている。</p> <p>海が貧困化している原因を考えると、淡路島自身が土作りを放棄したために大地が痩せてしまっている。養分を含んだ水が海に染み出していかず周りの磯魚も育たない。農産物に関してもため池の上にソーラーパネルを並べるとため池の活力がなくなってしまい、近年やっと取り組み始められたかいぼりもやりにくくなる。</p> <p>ロードマップの話でもあったように、電気というものさしではかって推し進めるのは未来的には良いが、電気は物理エネルギーなので流動性が高くお金と一緒に流れていってしまう。タマネギなど1つ1つには生物エネルギーが貯まっている。淡路島の人々の多くがそういった農水産物のストックのエネルギーを有効活用して豊かな風土をつくっていたのが御食国。そういった文化的土壌のあるところに流動性の話だけで持ってきてしまうと続かないのではないか。いろいろな施策が行き詰まっているのはここに原因があるのではないか。定住したいと思えるような魅力はストックの資源で淡路島をいかに豊かにするかだと思う。土作りからもう一度やり直していただき、まわりの海に栄養が染み出しイカナゴの釘煮がまた炊けるような場所になってほしいと願っている。</p>
<p>石村 会長 ((一財)淡路島くにもみ協会)</p>	<p>様々なご意見をいただいた。持続可能なモデルをつないでいく推進的な未来島構想を目指すにあたり、いただいた貴重なご意見をまとめて次回以降の検討に生かせるようつないでいきたい。</p>
<p>雨堤 代表 (Amaz 技術コンサルティング合同会社・五色町商工会)</p>	<p>構成団体から</p> <p>資料3-1の1(8)EVアイランドあわじ推進事業に関して、夢舞台サステイナブルパークにもつながる話だが、淡路夢舞台地下駐車場のEV急速充電器について。昨年から故障中で、対応策を淡路夢舞台等に提案したが、今も故障中のままになっている。先ほどEVの普及に関する話もあったが、こうした根幹の対策がなされていないことが問題だと思う。きちんとした整備を希望する。</p>
<p>岡田 会長 (「環境立島淡路」島民会議 あわじ菜の花エコプロジェクト推進部会)</p>	<p>里山、里地、里海の3つが一日で見られるのがこの島の風物詩。この原風景を大事にしてこの島で住み続けたいと思う子どもたちを育成しないと持続可能な島づくりはできないと思い、賛同してくれる地域の人たちで百姓の会をつくって百姓のマルチな知恵を子どもたちに身につけてもらえるような環境授業をやっている。</p> <p>棚田を放棄田にせず、棚田が生きて初めて魚が育つので、淡路島の地元の魚がシーズンになったらあらわれてくるように、稚魚が育つ磯にしないといけない。</p>

<p>岡田 会長 （「環境立島淡路」島民会議 あわじ菜の花エコプロジェクト推進部会）</p>	<p>菜の花の植栽、刈り取りをする際のコンバインについて要望する。洲本地域ではうまくコンバインをまわして実施できるようになったが、全島的な展開のため、南あわじ地域等での菜種の刈り取りでもコンバインを共同で使えるような仕組みにしてほしい。一番搾りの安全な菜種油を子どもたちの給食にしっかり使われるようにしていただき、子どもたちの健康な身体をつくっていく食材を淡路島が生む。そのようなライフスタイルを特区の中でモデルを作り、みんなに見に来てほしい。そうすれば交流人口も増える。そういったアクションを起こすようにしたいし、気づいてほしい。SDGs2030、カーボンニュートラル 2050 の際に一番地球の大きなインパクトを受けるのが子どもたち世代なので今の我々がしっかりやらないとだめだと思っている。よろしくお願ひしたい。</p>
<p>木村 元委員長 （第3期・第4期淡路地域ビジョン委員会）</p>	<p>本日欠席の第1期・第2期淡路地域ビジョン委員長に代わって発言させていただく。エネルギーの関係のポイントは蓄電。淡路島で生まれたエネルギーを蓄電することにもう少し力を入れてほしい。また、持続可能な、の部分に関しては農地を持続可能にしていけることが大事。淡路の原風景、エネルギーの問題にも関わってくるためよろしくお願ひしたい。</p>
<p>高崎 兵庫県企画部次長</p>	<p>3 閉会 （閉会あいさつ）</p> <p>大阪・関西万博まで1年を切り、淡路島の魅力を発信するAWAJI島博の展開を通じて国内外の人々に淡路島の魅力が伝わることを期待している。県では万博に際し、地域のSDGsを体験できる活動の現場を発信するひょうごフィールドパビリオンをすすめている。淡路島でも18件の多種多様なプログラムが認定されている。国内外から注目が集まることで、住民の皆様の地域の誇りが後継者育成や地域活性化につながるような好循環につなげたい。</p> <p>平成23年に始まったあわじ環境未来島構想は淡路島の豊富な地域資源を生かしながら様々な取組を進めてきた。地域の持続に向けては交流人口の拡大を目指すことと定住人口の減少の食い止めが必要。定住人口減少を食い止めるには、次の時代を担う若者に地域で働きたい、活躍したいと思ってもらうことが必要である。フィールドパビリオンのプログラムを国内外の観光客だけでなく地域の若者や子どもたちに体験してもらう、そのことがシビックプライドの醸成や地域の定着に結びつくことを期待する。</p> <p>今後も構想が目指す将来像の実現に向けて皆さんと共に歩み続けたい。</p>